

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0175700293		
法人名	日本システムサービス株式会社		
事業所名	グループホームいきいき岩見沢		
所在地	岩見沢市志文町1180-47		
自己評価作成日	平成29年9月1日	評価結果市町村受理日	平成29年11月20日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JigyosyoCd=0175700293-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>郊外の自然環境に恵まれ、景色の良い場所にホームがあり、地域との交流も盛んに行っており、町内行事、老人クラブなどにも積極的に参加し、地域の一員として心穏やかに、自分らしくいきいきとした生活をしていただいています。今は毎月1回程度川柳を実施。利用者様とスタッフで行い、書いた川柳を投稿する予定です。</p>
--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ
所在地	札幌市北区麻生町5丁目2-35コーポラスひかり106号
訪問調査日	平成29年9月26日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は岩見沢市郊外にあるサニータウンの端、緑豊かな閑静な住宅街にある。建物は3階建てのアパートを改修し1階は駐車場、2階は4室と共用空間、3階に5室あり、入口の階段にはいす式階段昇降機を設置している。居室、共用空間は明るくゆったりとしている。職員は笑顔で優しく、一人ひとりが理念「地域の一員としていきいきと心穏やかな生活、自分らしい生活・・・」をおくることが出来るように細やかな支援をしている。食事前に「あいうえべ体操」をするようになってから食事中に咳き込む利用者がいなくなった。町内会行事にも積極的に参加し、道路の清掃や草取りを行い、又利用者は老人クラブや敬老会の参加を楽しみにしている。月1回川柳が趣味の利用者を中心に川柳会を行い、市が募集している川柳に応募を予定している。居間や廊下の壁のあちこちに川柳や、職員手作りの切り絵、季節の草花が飾られ、利用者は家庭的な雰囲気の中で自分らしい生活をしている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフ全員で理念を共有し、利用者の実情にあわせて自立を支援しながら、サービスの向上を心がけて実践している。	理念を廊下と事務所内に掲示して職員全員が理念の「地域の一人として穏かな生活を・・・自分らしく・・・」を共有し、実践につなげ前向きに取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	町内会の行事や親睦会、連合会のお祭りにも参加し、地域の一人として日常的に交流を深めている。	町内会に加入し地域の一人として町内の清掃活動はじめお祭りや敬老会に参加し交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	幼稚園児や教師をグループホームへ招き、職員と利用者の関わり方や声かけ等を学んでもらい交流を図っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で、指摘されたことや意見をサービス向上に努め実施している。	会議は年6回開催し、市職員(介護保険課・生活保護課)、地域包括支援センター、民生委員、町内会役員などが参加し事業報告、防災など話し合い、意見や助言を得てサービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険の更新申請や運営推進会議等でお会いしたときに、事業所の実情やケアサービスの取り組み状況をお伝えし、協力関係を築いている。	市のそれぞれの担当者と連絡を密にし、事業所の状況等を報告し情報交換を行い、指導、助言を受けている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の理解を促し、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束をしない宣言を掲示し、職員は身体拘束の意義を理解して身体拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関には防犯のためチャイムが鳴るようにしているが玄関の施錠は夜間のみ行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員の精神的ストレスを考慮し、利用者ファーストを心がけケアに努めている。		

グループホームいきいき岩見沢

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度の研修に参加した職員(2名)による内部研修を実施した。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時の説明等は、入居希望者や家族の不安を取り除き、丁寧に理解と納得を図ることとしている。入居者あり。説明不足もあり、今後の課題としている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者や職員が、利用者および家族からの意見・要望を聞くようにして、意見や要望を運営に反映するようにしている。	利用者の意見、要望は日常の会話などから意向の把握に努め、家族とは、電話又は来訪時に利用者の様子を報告する折に意見、要望を聞いて運営に反映させている。入口に苦情受付担当者の名前と電話番号を掲示し意見、苦情を言い易いようにしている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや普段の業務時に気づいた意見等を運営に反映させている。	管理者は日常的に職員との交流に努め、毎日のミーティングや生活の中で意見、要望を話し合い運営に反映させている。また、職員同士話し易い雰囲気がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	一人一人の経験とレベルを把握し、やりがいや向上心を発揮出来る環境の整備に努めている。また、給与や勤務条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員のケアの質の向上に、本人の力量に合った各種研修の機会を設け、他、職場での役割をそれぞれ持ってもらう。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のグループホームとの交流はないが、町内行事参加時に、一緒になったとき情報交換を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居された利用者様には、初期に築く本人との信頼関係を大事にし、本人の安心を確保するため、傾聴を心がけ、関係づくりに努めることにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居されたご家族には、初期に築く家族との信頼関係は、家族の不安を軽減しながら傾聴を心がけ、関係づくりに努めることにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居された利用者様とご家族には、サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等がまず必要とする支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めることにしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の主体性を大切にし、スタッフも入居者と共に調理や食事をして、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月手紙による入居者の状況報告やご家族の来訪時に、日常生活の様子をお知らせし、共に本人を支えていく関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者が大切にしていく馴染みの人やこだわりが途切れないよう、支援に努めている。	馴染みの友人や知人が来訪した時はゆっくりつるげるように配慮している。訪れる理髪店の利用者が多いが家族と行きつけの美容院に通っている利用者もいる。町内会の清掃や散歩などで地域住民と馴染みの関係を築いている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係を把握し、一人で孤立しない環境をつくり、そのうえで支えあいながらマイペースで暮らせるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後、必要な場合はいつでも、相談や支援が行えるよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の思いや意向を普段の会話やケアプラン作成時に汲み取り、困難な場合は本人本意に検討している。	各居室への職員の訪問時、散歩の時など一人ひとり声掛けして意向の把握に努め、パソコン将棋をする時間を決めたり、川柳会を月に1度行い市に応募したりと希望に添う様に支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴等の情報から、暮らしのパターンやサービス利用の経過等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録等から一人ひとりの心身状態や有する能力の現状把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人やご家族から情報収集を行い、ミーティング等でスタッフから見た現状やアイデアを確認し、現状に即した介護計画を作成後、完成した介護計画をスタッフに回覧している。	家族、利用者、主治医、職員と話し合い、現状に即した介護計画を6か月ごとに作成して家族の確認を得ている。変化があればその都度見直しをして、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や介護記録の情報をスタッフで共有しながら、個別に介護支援経過として記録し、介護計画の見直しに活かすことにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々生まれるニーズに柔軟に対応するために、固定観念にとらわれないよう、本人のできる、スタッフのできることは何かを探りながらサービスの提供に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の情報収集に努め、本人が心身の力を発揮しながら、安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関は4週に1回の往診があり、24時間連絡が取れ、安心して医療が受けられるような体制が整っている。	入所時に本人、家族の意向、希望を聞いて、希望に添ったかかりつけ医に受診できるよう支援している。かかりつけ医の受診は原則家族が行うが希望により職員が同行する事もある。月1回協力医による往診があり、緊急時に対応した24時間体制をとっている。歯科医の往診もある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員はいないが、協力医療機関から病状の把握と適切な報告の手引きの訓練を受け、病変時の指示を仰ぎ適切な対応をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が安心して治療できるように、医療関係者(主治医)との関係づくりを行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所で支援できること・できないことの説明は行なっている。状況に応じて主治医への連絡体制を整えている。	契約時に「重度化した場合における指針」に基づき利用者や家族に説明して理解を得ている。早い段階で利用者、家族と協議したうえで協力医と相談し、提携医療機関へ入院の対応となっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に救急救命講習を受け、全職員が実践力を身に付けている。AEDの研修で、認定証を受けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的避難訓練を行い、地域緊急連絡網を作成し、地域との協力体制を築いている。	消防署の指導の下、町内会や民生委員、地域住民の協力を得て年2回(昼と夜間を想定)火災を想定した避難訓練を実施している。階段を使うのが困難な利用者については窓からベランダに出るように消防署から指導を受けた。	一時避難場所を指定し、家族にも通知する事を期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーの確保に努めている。	利用者一人ひとりの状況に応じた声掛けや心遣いを行い、尊厳や誇りを損ねないケア、個々の気持ちを大切に優しい言葉かけをしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望を自由に表現でき、自己決定できる環境の整備に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活のリズムを優先にしながら、運動や食事の時間には声かけを行い、無理強いはしない支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	女性はマニキュア等の遊び心を持ち続けられるよう、男性はそれぞれに応じた衣類を購入し、月に一度の訪問理髪は全員が行っている。		

グループホームいきいき岩見沢

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個別に好き嫌いを把握し調理を行い、職員と一緒に調理、配膳、片付け等を毎食行っている。月に一度は、外食や出前(お寿司等)による食事の機会を設けている。	日頃より個別に好みを把握し、献立を考え、時には寿司の出前を頼んだり季節に応じ行事食を楽しんでいる。誕生会にはお酒を楽しむこともある。職員と共に楽しく食卓を囲み、食後は一緒に片付を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	本人の状況に応じて、おかゆ、刻み、とろみ、分量の調整等の対応を行い、栄養バランスや水分確保を個別に行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科主治医より指導があり、本人では汚れが落ちていない時はブラッシング等の介助をしている。食前にはあいうえべー体操を行い、誤嚥の予防に取り組んでいる。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	できる限り自分で行えるよう、排泄の失敗やおむつの使用を減らすため、意思表示をされない入居者には定期的に声かけを行っている。	利用者の介護度が低く全員自立排泄しているが、見守りの必要な利用者には排泄パターンを把握し、状況を見守りながら声掛けをしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時(AM6:30)の牛乳、温かいお茶の摂取や午前中(AM10:00)の散歩、ラジオ体操等を行い、個々に応じた予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の曜日を決め(女性/月・木曜日、男性/火・金曜日)、入る順番が公平になるようローテーションを組んでいる。体調不良等の場合は無理強いをせず、個々に合わせた支援をしている。	基本的に水曜日を除いて毎日午後から男女別に曜日を指定し週2回入浴している。入浴剤を使い寛いで入浴を楽しめるように工夫し、介助を必要とする利用者は職員の見守りを受けながらゆっくり楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、室内や屋外の散歩や運動等の機会をつくり、その時々状況に応じて、個々のペースに合わせてながら支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	月に一度、医師と薬剤師が来訪された際に、薬の内容説明を求めると応えてくれますので、その情報や個々の服薬状況をまとめ、スタッフに回覧し情報を共有しています。症状変化には日々気をつけるように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者の生活習慣に合わせ、日常的に楽しめるよう、外食や紙芝居、トランプ等で気分転換の機会をつくり、個々に食器洗い等の役割を与え、自立を促している。		

グループホームいきいき岩見沢

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常の会話等から、希望していることなどを確認し、町内行事(お祭り参加等)への参加を積極的に行っている。	町内の散歩に出掛けたり、町内会の行事(お祭り、敬老会等)に出掛けている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設でのお金の管理は必要最低限でしか行わず、一人ひとりの希望等に応じ支援している。月に一度、個々のお小遣い帳をまとめ、家族等へ送付している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者さんで電話の希望や手紙を書く方が少ないが、会社の電話の子機で自由に架電できる、手紙も出せるように支援している。通話(3分120円)、郵送料は実費。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	音や光に気配りし、カーテン等で調節を行っている。季節の変化を感じ取れるよう、心地良く過ごせるよう工夫をしている。	食堂兼居間は明るくゆったりとして居心地良い空間となっている。壁には「川柳」等作品が飾られ、広い廊下には室内運動器具(自転車)があり利用者がそれを使って楽しんでいる。広い窓からは緑の森を見渡せ季節を感じられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂、リビングを配置し、利用者の交流が図れる場所を設けている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時より本人の使い慣れた家具、食器を使い、家族と相談しながら家具配置をし、心地良く落ち着いて過ごせる様工夫をしている。	居室は広く家族も希望すれば宿泊できる。2階に4室、3階に5室あるが、3階の居室は広くトイレ、洗面台もついている。又、使い慣れた家具やベット、テレビなど置かれ居心地良く過ごせる部屋となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下や階段には手すりを設け、個々に応じて有する能力を活かした環境づくりに努めている。		